

「人と組織の最適な関係づくり」を使命に

—— ディズニーの世界観に魅了されて ——

橋本 祐造（48 回生）

中学の頃にテレビで目にしてから、ラグビーをしたいと強く思い、「ラグビー部があるかどうか」という基準で学校を選び、入学したのが新宿高校でした。当時は自分に一番合うスポーツがラグビーだと思っていました。ステップを踏みトライを決めた時、相手をタックルで倒した時、チームが勝った時、今まで体験したことがなかったほど嬉しい気持ちになりました。しかし、怪我が度重なり、最後は受験勉強を言い訳にして、途中で自ら退部しました。これまで様々な挫折を経験してきましたが、人生最初の挫折体験になりました。

その気持ちで受験勉強に入り、勉強に本気で取り組みせずに失敗。浪人生活に入りました。最後にようやくこのままいったら後がないことを悟り、そこから猛烈に勉強をしてやっと大学受験に合格することができました。

大学の入学式、講堂の前に立ち、こんな考えを持っていたことを今でも覚えています。「20代は自分が生きる目的を探す旅をしよう。そのために新しい体験をたくさんしよう」と考え、行動を起こすことを心に決めていました。

大学4年間ディズニーランドでキャスト（アルバイト）をしました。その中で、パークで働く人の96%がアルバイトで、96%以上のリピーターを生み出しているという人と組織の関係づくりに、とても興味を持ちました。私自身が飽きっぽく、同じことをやり続けられない性格だったのですが、そんな自分が毎週土日は朝4時30分に起きて、バイトに向かうことができたのです。きっとディズニーの世界観に魅了されていたのだと思います。この「人と組織の最適な関係づくり」が働く上で、の使命になっています。私の働く使命は、大学の就職活動中に「自分は何のために生まれ、何をして生きるのか？」を自問自答した結果、決めました。

以来17年間、いつ、どこで、何をしても、この思いは変わることなく、人事領域で仕事をしています。人事の仕事とは、「人の人生に向き合って、寄り添って、溶け合う」ことで、一人一人の人生を本質的に理解し、力を結集させて、組織で

大きな成果を出すためにどうしたらいいかを考える役割を担っています。

これまで4万人以上の人と会ってきました。そこで感じた高校時代からその後の進路の決め方、仕事を通じて大きな成果を収め、成功してきた人に共通する要素が3つあるので紹介します。

①周りの空気で人生の意思決定をしない

人は環境から驚くほど影響を受けます。でも考えて欲しいのです。もし影響を受けて人生の意思決定をするなら、一体誰の人生を生きているのでしょうか。意見は大いに聞くべきです。しかし、いつ、どこで、誰と、何をするのか、という人生の意思決定は主体的に人生を送りたいなら自分がすべきなのです。

②身近な人のブロックに左右されない

うまくいかないことがあると、周りの人から「あれは失敗だったね」と言われて、その後の人生で挑戦する時に怖気づいてしまう人がいます。本当にもったいないことです。うまくいかないことは、むしろ失敗ではなく、その方法ではうまくいかないという経験値を得ることができたという成功なのです。

③調子の良い時より悪い時にこそ周りに助けを求める

決断をして、行動を起こしても、人は「本当にこれで良かったのだろうか」と不安を心に抱き、何度も挫けそうになるものです。そういう時こそ、勇気を出して、周りの人を頼ってみると、驚くほど助けてくれます。調子の良い時の自慢よりも、調子の悪い時に自分の弱さをさらけ出した方が、周りは力を貸してくれます。

人生は一度きり、人生を充実したものにできるかどうかは、周りの雰囲気や誰かの考えで決まるものではなく、自分の人生を主体的に意思決定しているかどうかで決まります。これを読んで、自分の人生の捉え方を主体的なものにしてみよう、と思う方の力になれば幸いです。

（朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）